

ケアポート板橋 特養5階

症例概要 80代 要介護4 女性

パーキンソン病 骨粗鬆症 慢性腰痛 貧血 起立性低血圧 完全右脚ブロック
便秘症

ケアポート板橋 特養5階 (入所 令和2年9月中旬～現在)

50代でパーキンソン病を発症し、通所リハビリ受けながら独居生活を送られていた。70代後半、薬の飲み忘れや転倒等が増えてきたことから、在宅での生活は困難と判断されてしまう。ご自身は在宅での生活を望んでいたが、渋々ご納得され入所に至る。

内 容

入所当初は、衣類の洗濯、嗜好品の購入等をご自身で行いたいというこだわりが強くありました。衣類汚染が度々見られ、どうしてもお預かりして洗濯しなければならない事が多くあり、洗濯中であることをご納得されず「泥棒!」と、職員への不信感もしばしば見られておりました。また入浴に関しても衣類の紛失等を気にされ、入浴を拒まれる事が多くありました。

居室担当者が中心となり、汚染衣類回収のためご本人と相談し、トイレ内に個別の洗濯回収箱を用意。また返却された衣類が居室内で分かるよう分別する方法へ変更することで、次第に担当者へ信頼をおいて下さる様になり、他職員へも任せて頂くようになりました。また入浴に関しても、ご本人の要望の時間や環境を整備した事により、入浴拒否なく入って頂くことができました。

根本的な「便汚染を減らす」という課題解決のためには、看護師との連携の下、下剤服用時間の見直しや排便コントロールを調整すると同時に、夜間帯のトイレ誘導を開始。トイレ内での自然排便を促す取り組みを行ったことで、汚染は以前より減りご本人も不快なく過ごされる事ができるようになりました。

そのような対応を継続していくと、ご本人より「昔通っていた行きつけの美容院へ行きたい」と、職員に対し頼るお言葉が聞かれるようになりました。しかし、コロナ禍における外出の自粛に加え、疾病から車椅子上で、上半身を長時間起こし続ける事が困難な状況でありました。ご本人の希望を叶える為に、理学療法士指導の下、美容室でのカットを目標に、姿勢保持のリハビリを開始。リハビリのイラストを用意し、いつでもご自分で見る事が出来るように自席に置くことで、自発的にリハビリを行って下さるようになりました。

令和3年12月下旬に感染症対策を万全に行い、念願の行きつけの美容院へ。懐かしい美容師さん

との再会に大変喜ばれておりました。お店にあるヘアカタログを見ながら「どんな髪型にしよう」と笑顔で嬉しそうに選ばれ、直接美容師さんに伝えながらカットしてもらい、大変満足な様子でした。

その後も事前に購入を検討していた爪切りや耳かき等の日用品購入やおやつを選ばれ、ご自分の財布からレジで支払いをする等、久しぶりの外出を思う存分楽しまれておりました。最近も「メガネを買いたい」と仰られており、次回の外出に向けリハビリに前向きな様子が見られております。

今回の事例は、特養が「生活の場」としてご本人らしく生活する為に、コロナ禍であってもご本人を中心としたチームで、要望を実現に向け行動するという成功事例そのものであると考え、キラキラ介護賞を推薦します。